0601047 | 文学 新講座　開講日：令和6年7月17日（水）

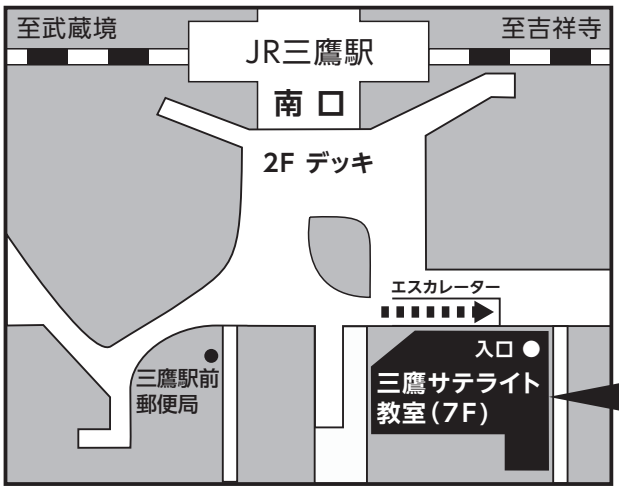
『源氏物語』明石の君の物語を読む

受講料（振込額）	12,500円				
必携テキスト	『源氏物語(二) (紅葉賀～明石)』［岩波文庫 / 柳井滋・室伏信助ほか / 2017年 / 1,562円］				
講座概要	曜日	水曜日			日程
	時間	15:00～16:30			7月17・31日 8月7・21日 9月4日
	回数	全5回	定員	40名	
	開講場所	三鷹サテライト教室　7F / 大教室			
講師	駿河台大学名誉教授・成蹊大学客員教授・中央大学ほか兼任講師・博士(東京大学)　吉野 瑞恵（よしの みずえ）				
	駿河台大学名誉教授、成蹊大学客員教授、青山学院大学、中央大学ほか兼任講師。 東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。 著書に『王朝文学の生成―『源氏物語』の発想・「日記文学」の形態』笠間書院・2011年。共著に、『『源氏物語』と日本文学史』（成蹊大学人文叢書18）風間書房・2021年、『三十六歌仙集（二）』（和歌文学大系52巻）、明治書院・2012年、など。論文に、「『狭衣物語』異本系本文の論理―道成の造型を中心として―」『中央大学文学部紀要』第123号・2019年3月、「女性が書くとき―日記文学研究の現況と課題―」『国語と国文学』第95巻第5号・2018年5月、など。				
内容	『源氏物語』の光源氏を取り巻く女性のうち、ただ一人光源氏の娘を産んだのが明石の君でした。彼女は中流貴族の出身でありながら、光源氏と結ばれて光源氏の邸宅である六条院に迎えられることになります。当時は中流貴族と上流貴族には大きな差があり、彼女はみずからが中流貴族であるという「身の程」の意識に苦しみます。しかし賢く身を処して、六条院で居場所を確保し、娘の明石の姫君は東宮のもとに入内し、やがて天皇の后となり、明石の君の子孫は繁栄していくことになります。その背後には、明石の君の父親である明石入道の長年の宿願がありました。この講義では、当時の身分意識や夢に関する信仰などにも着目しながら「明石巻」を読み進め、明石の君の生き方に焦点をあててみたいと思います。 〔持ち物〕テキストは、小学館新編日本古典文学全集、岩波新日本古典文学大系、新潮日本古典集成などで明石巻が入っている巻をお持ちでしたら、そちらでもかまいません。				
	①7月17日:光源氏の須磨流離 ②7月31日:光源氏、明石に移る（桐壺院の霊の出現） ③8月 7日:明石入道の願い（夢を信じるということ） ④8月21日:明石の君と結ばれる（結婚の当初の形態の意味） ⑤9月 4日:明石の君懐妊、明石の君との別れ				

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University 武蔵野大学
響き合って、未来へ。
MUSASHINO 100 UNIVERSITY 1924・2024

武蔵野大学社会響創センター
〒202-8585 東京都西東京市新町1-1-20
TEL：042-468-3222
月~金（祝祭日除く） 9:30~16:30
https://lifelongstudy.musashino-u.ac.jp/
武蔵野大学 生涯学習 検索

武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビル

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR 三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 7F
（三菱UFJ銀行のビル）

1F入口からお入りください

- 「受講の手引き」を必ずお読みの上、ご参加ください。